

国家試験と大坂なおみ選手

市川治療室 No.366.2019.02

2月は各種の国家試験の時期です。はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師（以下マッサージ師）の国家試験も今年は2月24日（日）に試験が予定されています。

はり師、きゅう師、マッサージ師は夫々別個の国家資格ですが、はり師・きゅう師・マッサージ師の育成学校は全国に大学、専門学校、公立学校など100を超えます。

はり師の国家試験は以下の通りです。

医療概論、衛生学・公衆衛生学、関係法規、解剖学、生理学、病理学概論、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、東洋医学概論、経絡経穴概論、はり理論及び東洋医学臨床論。

学校でのカリキュラムは、経絡経穴概論とはり理論及び東洋医学臨床論を除くと他の医療専門職と同じです。

はり師は学校で西洋医学と東洋医学（伝統医学）を勉強してきました。

昨年4月から、はり師・きゅう師は「機能訓練指導員」の要件に加えられ介護施設で機能訓練（リハビリ）の立案・作成・実践指導することが可能となりました。

はり師の国家資格を所持する者は機能訓練に関する基礎知識も持っているということです。

米国・欧州（英国やドイツ・スウェーデンなど）では、ドライニートルという名の元リハビリテーションの現場で「鍼」が用いられています。

ドライニートルは、骨格筋、筋膜、結合組織の機能障害の治療に用いられ、身体の構造と機能の障害を回復させ、活動と参加を高める技術です。

細い糸状の鍼を皮膚に刺入し、下層の筋膜のトリガーポイント、筋肉、結合組織を刺激し、神経金骨格系の疼痛と運動障害のマネジメント行うものです。

これは日本のはり師が行っている手技と同じものです。（日本には他に経絡・経穴を考慮した古典的な手技もあります）

日本ではドライニートル的なアプローチと古典的なアプローチがありますが、現代は前者が多数を占めます。

1月に全豪オープンで優勝した大坂なおみ選手は1月28日付けで世界NO1の女子テニス選手になりました。

この大会序盤に腰に違和感を抱えていましたが、「チームなおみ」のコーチ（専属フィジカルトレーナー）が西洋の最先端技術と東洋のはり治療を織り交ぜたケアで13日間で7試合を勝ち抜いたとスポーツニッポンが1月27日付けで報じました。

患部や四肢に加えられた鍼刺激は、脊髄視床路を通り延髄・中脳・視床下部などの脳内に伝えられます。

視床下部では「オキシシン」というホルモン産生を促し、その効果は抗ストレス作用・鎮痛効果があるとされています（クリニック徳院長・元ウイスクンシ医科大学教授）

日本のスポーツ選手（プロやオリンピック選手を含む）の専属トレーナーとして活躍している鍼灸師は少なくありません。生理学や解剖学をはじめとする西洋医学的な知識と鍼の手技などの東洋（伝統）医学的な知識が活かされています。

大坂なおみ選手の腰痛をケアしたコーチと同じということです。

市川治療室は機能訓練に関してその知識を基にしてアプローチを、また鍼・マッサージを活用して患者さんの身体のケアと同時に活動性の向上から社会参加までを目指しています。